

2013年 2月24・25日 東大・京大受験生応援記 (南賢司)

[24日 13:30]

毎年のごとく国公立大学の受験の日がやってきました。今年の受験応援記は世界史科の北林先生にお願いしようと考えていましたが、急遽北林先生が行けなくなったため、私の出番となりました。前日にその報告を聞きつけ、普通に東大に行っても面白くないなと思い、長年行こう行こうと思い続けていた鶴岡八幡宮へ行くことを決めました。決断するのも遅く、運悪く人身事故とも重なり、ちょっと遅めの13:30に新大阪に着く始末。13:50発のぞみ230号に乗るまでに少し暇があったので、改札口付近の喫茶店に入りました。結構高いハンバーグカレーを食べましたが、量の少なさに悲しみを感じ、晩ご飯は「いいものを食べてやる！」と決意し、新幹線に乗り込みます。

そして、先日直木賞を受賞した阿部龍太郎さんの『等伯』を読み始めます。物理の内多先生に借りて中途半端になっていた『横道世之介』(内多先生絶賛!下宿時代の生活を思い出すそうです)、ちょうど映画化された瞬間だったので、こちらを読もうかな~とも思ったのですが、まとまった時間が取れるときは重厚なものを読んだ方がいいと思って『等伯』にしました。何と言っても2冊ぐみですからね。最初の1章しか読めなかったのですが、その章の最後で、まさか、そんな、えっ…という展開に。興味があればご一読を(なぜか宣伝)。そうこうしているうちに名古屋から隣の席に座る青年が現れました。如何にも受験生然とした振る舞いに、もし地理とか勉強しようものならすかさず「ほら、データブックをごらん☆」ってこれみよがしに見せようと思っていましたが、出てきたのは自作の英作文ノート。しかも、ずーっと英作文しかしないのです。せっかく横に地理の先生がいるのにですよ(笑)。

[16:45]

新横浜で英作ボーイに別れを告げ、16:45あたりに鎌倉に到着。鎌倉だからと言って「かまくらよ、な~ぜ、ゆめのよ~な、にじをとお~ざける~」という歌詞で有名なサザンオールスターズの『鎌倉物語』が流れているわけもなく(ちなみに歌声は原由子)、寂しげな夕焼けシーンがお出迎えです。早く鶴岡八幡宮に行かねば、暗くなっていい写真が撮れぬではないかと思い、小走りで鎌倉ロードを駆け抜けます。酸いも甘いも噛みしめた円熟味ある高齢者から濡れせんべいをほおぼるキッズたち、果てはゴールデンボンバーのような出で立ちの少年少女を乗せた人力車をすりとかわしながら、あこがれの鶴岡八幡宮に到着。何であこがれていたかと言うと、中学時代の美術の課題で、濱島書店の歴史資料集に載っていた、紅葉時期の鶴岡八幡宮を描いたことがあったのです。何気なく描いた絵でも、眺め続けていけば、いつのまにか「いつか行くべき運命の場所かもしれない」、そう思うのが人間の常ですよ。 「自分が描いたあの階段…、源実朝が公暁に暗殺されたあの階段…」と心拍数上げながら近づいていったのですが、実際は意外に小さくて拍子抜けしました。勝

手にグレートな存在にできてしまっていたみたいです。周りの観光客も、男「この銀杏の陰に隠れていた公暁が、おじさんにあたる源実朝を暗殺したんだよ」、女「へー、おじさん殺しちゃうんだー、すごいねー」と、大して“すごさ”を感じているようには思えない会話を聞きながら、取り敢えず、合格の“ご”にちなんで55円の賽銭を投げ入れ、研伸館生の第一志望合格を祈り、足早に鎌倉駅に向かいます。明日の東大文系受験生応援のために、駅前のお店屋さんでクッキー24ヶ入り「花かまくら」を購入し、東京へ向かいます。



勝手に名付けた鎌倉ロード



銀杏の木の説明



鶴岡八幡宮

[19:30]

鎌倉ー東京間の所要時間や距離感が分かりづらいと思いますが、この辺りには湘南新宿ラインという路線があり、鎌倉から新宿まで60分で行くことができます。この路線の各駅停車に急いで乗って、隣の人に「渋谷まで行きますか？」って聞いたら、「路線の名前的に新宿には行くでしょう」と冷静に答えられ、妙に納得してしまいました。再び先ほどの『等伯』に没入すること1時間、19:30に渋谷に到着します。毎年訪れているにも関わらず、どこの出口から降りれば目当てのカプセルホテルにたどり着けるのかまったく分かりません。きっとたまに出張で渋谷を訪れるサラリーマンには納得して頂けると思いますが、ほんとに迷路です。いろいろ歩いた挙げ句に出口を見出し、10分ほど道玄坂を上ってカプセルホテルにチェックインします。7年連続、2月24日に泊まり続けているので、「南様、毎年

このお日にちにお泊まり頂き、ありがとうございます」って言われるかもしれないドキドキ感でチェックインしているこっちの気も知らず、ごくありきたりな対応をされたことに傷心しつつ、荷物を一旦ロッカーに置きます。すぐに外出し、ここからは胸膨らませて晩餐です。東大に応援に来ていた野口先生とJR渋谷駅モヤイ像前で待ち合わせし(こうして見ると、モヤイは髪の毛があったらインディオっぽいよね)、野口先生があらかじめ調べていた松川本店というところに鰻重を食べに行きました。昼食を軽食で済ませたスパイスが効いたのか、この鰻重がうますぎ♪鰻と酢の物を組み合わせた“うざく”、さらにはご飯もおかわりしました。最後、野口先生がトイレに行っている隙に会計を済ませ、「もう支払っておいたよ野口くん」と、出来る先輩ぶりをチラつかせつつ、大満足の晩餐も終焉です。



[25日 6:00]

24日の夜、NHKの「シリーズ大震災発掘 埋もれた警告」を見て、活断層の恐怖におおのき、受験当日の東京の気温が最高7度であることに冷え冷えし、受験が近づく緊張感や高揚感と相まって、浅い眠りのまま 6:00 を迎えます。朝風呂を浴びて、カプセルアウトすると、意外に気温は高くても天気も良くて、「いい受験びよりではないか！」と勝手に結論づけて、駒場東大前駅に 7:50 に到着。着いた瞬間びっくりしたことは、すでに開門されていたことです。いつもは 8:20 ぐらいなのに、7:40 ぐらいから開門していたかも知れません。毎年ごった返す状況の改善を図ったのでしょうか。また、昨年よりも規制が厳しくなっている感じがしました。改札を出て下の広場に向かうときに、「直進できるのは受験生だけで、それ以外の人は左に回ってください」と行き先を指定されます。左に回った辺りで、かつての教え子のNくんやKさんに出会い、その後、生徒を待とうとしたのですが、幾人かの教え子以外のほとんどの受験生がすーっと直進していくので、“このままここで待っている誰にも会えないのではないか！”と焦り、改札前に待つ場所を切り替えます。でも、ここも時間が経つにつれ、どんどん人が増えていき、しかも時刻表前に立っていたら「時刻表の前に立たないで(怒)」とか怒られて(きっと誰も見ていないのに…)、意気消沈してまた下の広場の左側に回ります。この瞬間、ちょうど教え子が私を発見してくれ、さらに洛南高校の子も発見してくれて、京都校の教え子にはいっぱい会うことができました。でも、総じて教え子の大半には会えなかったのも、「花かまくら」の大半を洛南の子に集中して差

し上げました(笑)。野口先生は、蒲田辺りのホテルで深夜に作成した“当日オリジナル確認プリント”を手渡していました。こういう細かい気配りの出来るところが素晴らしいと思います。



改札前



改札下



東大駒場校舎



東大駒場校舎前広場

[9:00]

幾人かの教え子に会えたことに満足し、9:00 に京大へ向かうべく、駒場東大前を後にします。野口先生は東京で旧友に会うそうで、ここでお別れです。いつもより何故か電車は混んでおらず、疲れずに品川までたどり着けました。ここで、今度は京大受験生応援のために東京スカイツリーが描かれてある何かしらかのお菓子を購入し、博多行きの新幹線に乗り込みます。東大理系会場に応援に行っていた松下先生も京大に向かっていて、連絡を取り合っていたのですが、残念ながら同じ新幹線に乗ることはできず、別々に京大へ向かうこととなります。「先に着いたら京都校で待っておいてよ」という言葉を無視して、先に京大へ行ってしまったことをここで謝ります。ごめんなさい、松下先生。できるだけ早く京大に行きたかったのです。

八条口からタクシーに乗り込み、一路京大の正門へ。12:00 ぐらいに到着して、正門をくぐるとすぐに学園前校の生徒達と話している柚田先生、川崎先生、飯塚先生らを発見。少し、遠くには網干先生、笹谷先生、答島先生もいました。ここからは各所を歩き回り、生徒を見つけてはお菓子をあげつつ応援をしていきます。折田先生像のところでは、三田校

メンバーの竹本先生、安田先生、松崎先生に出会い、その後、山下先生や京都校進学アドバイザーの湯川さんにも遭遇しました。いつも存在していたこたつを敷いて鍋をつついて
いる京大生が今年はいませんでした。力士姿の人物が登場していました。あと、遅れて
やってきていた天満先生がチアガールとともに踊っていたそうです。残念ながら私はその
瞬間を目にすることはできませんでしたが(泣)。

みんなの努力とみんなの応援が結実することを願って、この応援記を終わりたいと思
います。



京大時計台



折田先生像



時計台前風景



なぜか力士と闘う安田先生
(安田先生曰く、「そんなに強くはなかった」)



なぜか力士姿の人物あり